



## 友垣よ

練馬区立石神井西中学校だより  
令和六年十月十日第七号(第十八号)  
校長 井上 貴 推

# 道徳は「素敵なあなた」をつくる

ようやく「秋らしい」日々がやってきました。暑い夏を乗り越え、過ごしやすい日中にホッとしますね。読書の秋、食欲の秋、スポーツの秋…いろいろな秋がありますが、どんな秋を皆さんは過ごしますか。季節は巡り、あつという間に冬がやってくると思います。貴重な短い「秋」。迷っている暇はありません。有意義な秋にしたいですね。

さて、今月は2日に道徳授業地区公開講座を行い、「ハンセン病」をテーマに人権を全校で考えました。改めてなぜ「道徳」を小中学校では学ぶのか…考えてみました。

### 1 街で偶然出会う「素敵な人」

先日、私が都内で電車移動していたときの出来事です。ホームの前方で閉まりかけた扉から飛び出てきた若そうな女性がいました。電車を降り損ねたのかなあ…と思いましたが、その人は何かを叫びながら小走りに階段を駆け登っていききました。すると、初老の男性が階段を下りてきて何かを受け取り頭を下げて、再び階段を登っていききました。渡した女性は、反対に階段を下りてきてホームに戻り、再びホーム前方に戻っていききました。私は階段を降りてきたその女性の表情が実に穏やかでキリッとしていたことが印象に残りました。私は最初、電車を飛び降りるなんて危ないなと思っていましたが、最後にはとても素敵な心の持ち主なんだろうなと想像し、なんだか嬉しい気持ちになりました。

### 2 「理解」したII「行動」できる…ではない難しさ

そこで起こったことを私は次のように想像しました。初老の男性が

電車を降りたとき、何かを落としたりか、あるいは座席に忘れてしまったのだと。そのことに気が付いた若い女性は、とっさにそれを届けようと思って手に取り扉から飛び出して、その忘れ物(あるいは落とし物)を届けたのだと思います。

私が印象的だったのは、その後の表情が、そうしたことで電車が一本遅れてしまったことを残念がったり、不満を漏らす様子は一切なくかといって良いことをしたという満足げな様子でもなく、全く当たり前前のことをしたという自然な表情だったことです。

私たちはよりよく生活するにはどうしたら良いか「理解」できていくはずですが、その理解通りに「行動」できているのでしょうか。

### 3 「道徳」の学びを「行動」に移せば「素敵なあなた」になれる

近くの人が物を落とした…ということは多くの人が経験していると思います。そのときに「すぐに拾って届けること」に反対意見をもつ人はいないでしょう。ですが、全員がいつもできていくのでしょうか。ましてや電車の中で自分が降りなければ届けられないという状況下でそれができる人はどれほどでしょう。「必ずできる」と即答できる人はかなり少ないような気がします。ではなぜ、私が見かけた人はそれができたのでしょうか。もちろんその理由は一つではなく、さまざまな要因があると思いますが、一つだけ言えることは、自分が「良い」と考える行動を迷わず「行動」できる人だということです。そして、それが「道徳」なのです。

「道徳」の授業で学ぶ内容は多岐にわたりますが、基本的な考え方は頭では「理解」できていることが多いはず。今回、道徳で学んだハンセン病に係る人権問題も、頭では「理解」できたと思います。では今後、どのような「行動」をしていけばよいのか。具体的に行動できたい人は、周囲から見えてきくと「素敵だ」と思ってもらえるはず。皆さんが道徳の学習で大切なのは、「行動」にいかにつなげるかということです。道徳とは「素敵なあなた」を形作っていく源なのです。「素敵な人」が揃う石神井西中にしていききたいですね！